

■温泉まちづくり研究会の概要

温泉まちづくり研究会は、温泉まちづくりに熱心に取り組む会員温泉地と(財)日本交通公社が真剣に議論しあい、議論の中からその過程から、“アクションへとながるヒントを得られる場”として開催する研究会(JTBF自主事業)です。当財団が事務局を務め、本研究会をきっかけとした会員温泉地の取り組み推進のほか、本研究会の活動の中から見えてきた普遍的価値を提言していくことで、広く社会のために役立てることを目的として活動しています。

① 設立 2008年4月

② 会員温泉地

- 北海道釧路市 阿寒湖温泉  
(研究会代表：大西雅之氏 (阿寒観光協会まちづくり推進機構 理事長))
- 群馬県草津町 草津温泉  
(幹事：黒岩裕喜男氏 (草津温泉旅館組合 副理事長))
- 三重県鳥羽市 鳥羽温泉郷  
(監事：吉川勝也氏 (鳥羽市温泉振興会 会長))
- 兵庫県神戸市 有馬温泉  
(研究会副代表：金井啓修氏 (有馬温泉旅館協同組合 専務理事))
- 大分県由布市 由布院温泉  
(研究会副代表：桑野和泉氏 (由布院温泉観光協会 会長))
- 熊本県南小国町 黒川温泉  
(幹事：穴井信介氏 (黒川温泉観光旅館協同組合 代表理事))

③ 2011年度 議論テーマについて

	本研究会 (14:00-17:30)	若手勉強会 (17:45-20:00)
第1回 (6/7)	震災後の消費者の価値観変化への対応	有馬温泉マスタープラン将来構想
第2回 (9/15)	日本の温泉地・旅館は長期滞在に対応できるのか、対応すべきか？	ソーシャルメディアとの“付き合い方”を学ぶ
本研究会 (2/20PM-21AM)		
第3回 (2/20-21)		
	●場所：大黒屋 ●開催方式：視察＋議論 ●テーマ	●場所：山喜 ●開催方式：視察＋議論 ●テーマ

2012年度 議論テーマについて

	本研究会 (14:00-17:30)	
第1回 (6/28)	“第2次おひとりさまブーム”に、温泉地・旅館はどのように対応する？	
第2回 (12/6)	本研究会 (14:00-17:30)	若手勉強会 (18:00-20:00)
	温泉を離れて考える、温泉地の観光的魅力	江戸時代、みんなが湯治を楽しんだ！？ ー温泉地における滞在型観光の原点をみる
視察・研修 (視察・研修)		
第3回 (2月予定)	企画検討中 (2月頃・1泊2日予定)	



■2011年度 温泉まちづくり研究会 デイナカツジョン記録

～日本の温泉地、温泉旅館の将来を考える～

本書は、2011年度に3回開催した温泉まちづくり研究会でのデナカツジョンを分かりやすく取りまとめたもの。日本の温泉地・旅館の将来について、会員温泉地と当財団が熱く真剣に語り合った記録である。

温泉地で具体的なアクションを考えている方々に、是非お読みいただきたい一冊。

価格 非売品 (お問い合わせください)

担当 小林英俊、久保田美穂子、吉澤清良

A4判 104頁

目次

- 温泉地再考1
- 温泉地再考2
- 温泉地再考3

震災を契機にますます求められる、温泉地の社会的価値(意味)日本の温泉地・旅館は長期滞在に対応できるのか、対応すべきか？  
室井代表に聞く アートの精神で旅館経営  
関論会 場としての旅館、行為としての旅館、表現としての旅館  
室井代表に再び聞く 旅館を踏み出す勇氣、畏怖、覚悟  
山口代表に聞く 刺激を受けて自分らしくチャレンジ





- 温泉地や温泉旅館を取り巻く現状について真剣に議論し、アクションへとつながるようなヒントが得られるものとする
- 半歩先ゆくテーマを取り上げ、“議論→アクション→検証”のサイクルを實踐する
- 議論から見えてきた普遍的価値を世の中に発信し、広く温泉地の魅力づくりに役立てる

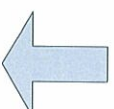
2011年度 第3回研究会(2月20日(火)～21日(火)、栃木県那須塩原市板室温泉 大黒屋)

温泉地再考3

“開論会”場としての旅館、行為としての旅館、表現としての旅館

論点

「保養とアートの宿 大黒屋」(室井俊二代表)にて、「場としての旅館、行為としての旅館、表現としての旅館」をテーマに、アートの精神で取り組む旅館経営(「アートスタイル経営」)について学び、  
● 温泉地や旅館はどうあればいいのか、旅館経営の根幹とは何かについて議論を深めた。



議論から見えてきた方向性やヒント

●「一期一会の塔」に込めた従業員達への敬意

○意識すれば木を植えることもアート(行為)になる

一黒川温泉は世代交代の最中。先輩達が25年にわたって木を植えてきたことが最初の物語で、木を植えることを楽しんでやってきたと。先輩達が木を植えてきたことは、室井さんがおっしゃっていた「行為」なんだと感じた。自分達の地域の歴史が、今日の話で腑に落ちた。

●「良いお客」は自分の目指す考えに合うお客

●経営と金儲けを混同しない

●競争原理のみの宿屋は、社会的使命を果たせない

○違いについて考えさせる宿

一人間はみんな違う。考え方の違いを持っている。その違いを、アーチストは表現する。面白いなとか、なんだこりやとか、変だなとか、気分いいかと思ってもらえればそれでいい。

○従業員の行為もアート、その集合体を旅館と捉え、旅館全体で表現

アートスタイル経営を、「場としての旅館」「行為としての旅館」の3つに分解して考えた。「場としての旅館」とは、空気感、感性とか目に見えないエネルギーが集まり感じられるところ、旅館をそのような“場”にということ。「行為としての旅館」とは、従業員の瞬間瞬間もアートと捉え、その集合体が旅館だということ。そして、「表現としての旅館」とは、社会の中で自分達がどういふ存在であるのか、旅館の社会的存在を表現していくということ。旅館を日々楽しく自分達の想いを表現する場になれば、日本の旅館がもっとも面白く魅力的になる。



2012年度 第1回研究会(6月28日(木)、東京千代田区)

温泉地再考4

“第2次おひとりさまグループ”に、温泉地・旅館はどのように対応する？

論点

旅館は「おひとりさま」とどう向き合うか



議論から見えてきた方向性やヒント

●「自立する時代」だからこそ一人旅が増える

●「おひとりさま」は、もはやポジティブ

○一人旅も「ではなく、一人旅」を

(別所温泉上松屋旅館)「一人旅歓迎の宿」ということで、15年前から一人旅の受け入れに取り組んでいる。この「歓迎」というのがポイント。「一人旅も、ではなく、私は一人旅を受け入れたいです」というのがこの旅館の倉沢章社長の言葉で、この表現にも違いが現れている。

●一人旅は、工夫次第で手応えが

○一人旅は、一人だけじゃない

「一人だけじゃない」。これは大事なキーワードで、一人旅といってもずっと最初から最後まで一人でいるわけではない。人と関わる機会をどう作るか。

●強力なリーダーになり得る「おひとりさま」

●今後増える、活カチャージのブレイク型

○一人旅をもてなす「程よい距離感」

(一休書き込み) 全体的には「ゆったりとした空気感」といった表現がよく見られた。もう一つのキーワードが「解放感」で、これも多く見られた。そして、多かつたのが「程よい距離感のサービスが素晴らしい」といったコメント。距離感というのは一人旅をどう迎えるかという意味で、キーワードになっている。

●自分にエールを送りたい女性を応援

●女性の一人旅はカジュアルでポップ

○「一人旅歓迎」を旅館からまち全体へ

一今後、黒川に持ち帰った時、どんな風にこの話題を膨らませたいのかなど考えていまして、個々の旅館でこういう取り組みがされているということでした。皆さんのヒントをいただきましたが、まちづくりとしてどうするのかと。



